

2 1 泉平ハイツ事業報告書（令和5年度）

1 事業方針

- ・ 施設を利用いただく方々の「その人らしさ」を尊重し、安楽な日常生活が過ごせるようにより質の高いサービスの提供に努めます。
- ・ 法令順守の徹底と倫理観の高揚により、個人情報保護、虐待行為の防止、介護事故の防止に取り組みます。
- ・ 職員の資質向上に向けた研修計画を策定し、優れた人材を育成することにより専門性や実践力を高めます。
- ・ 地域住民の方々との信頼関係を築き、地域資源の円滑な活用と地域ニーズへの貢献活動を推進します。
- ・ 感染症予防について、より一層の注意を払い、より安全で健やかな日々を過ごせるように感染症対策を徹底します。

2 実施事業及び職員体制

令和6年3月31日現在(単位:人)

事業種別	利用者数		職員数				
	定員	現員	介護員	看護職員	調理員	その他	合計
介護老人福祉施設	74	69	40	6	11	11	96
短期入所生活介護	16	12～16/日					
通所介護	25	7～17/日	7	2	1	0	
認知症対応型共同生活介護	18	18	17	0	0	0	
指定居宅介護支援事業	35	30	0	0	0	1	

* 職員数には非常勤を含み、育児休業を除く

* その他は、相談員・事務・庁務、洗濯に係る職員

3 サービス業務

(1) 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

- ・ 令和5年度の接遇目標「どんなに忙しくても 笑顔とあいさつ を忘れずに！」を外部の方にも見える場所に大きく掲示し、職員の意識を日々高めながらコミュニケーションスキルの向上に努めました。
- ・ 利用者が余暇時間に作製した作品を県高齢者福祉事業協会作品展に出展したところ、1名が会長賞を受賞し、県庁ホールに展示されました。このことは利用者のやりがいとなり、意欲向上につながりました。
- ・ 新型コロナの5類移行に伴い、面会や外出、一時帰省を再開したことで、利用者の明るくにこやかな表情が見られました。

(2) 短期入所生活介護 (ショートステイ)

- ・ 在宅での様子や環境等を聞き取り、居室準備に活かすとともに介護職員等との情報共有を図り、個別ケアの充実に努めた結果、前年を上回る利用数となりました。

(3) 通所介護・介護予防通所介護相当サービス (デイサービス)

- ・ 利用者の目線の高さに合わせてコミュニケーションは取れていますが、利用者を「〇ちゃん」と呼ぶ職員もいて、会議で話し合いましたがなかなか直すことができませんでした。また、職員のスキル向上のための研修は実施できませんでした。

(4) (介護予防) 認知症対応型共同生活介護 (認知症高齢者グループホーム)

- ・ 接遇の目標「笑顔で挨拶」を掲げて、チームでスキルアップを目指しました。
- ・ 看取りの指針とマニュアルを作成し、勉強会も行い、職員の知識を深めました。8月にはご家族の希望で、グループホーム内で看取りを行いました。

(5) 指定居宅介護支援事業 (泉平ハイツ指定居宅介護支援事業所)

- ・ 利用者をご自分らしく望む暮らしが実現できるようにケアプランを作成しました。また、プランに基づいてご家族や各サービス事業者等が連携した支援を継続できるよう、定期的にケア会議を開催しました。

4 管理業務

(1) 施設運営

- ・ 自然災害及び感染症発生時の業務継続計画(BCP)について、昨年度末に特養ハイツとショートステイは策定しましたが、デイサービス、グループホーム、居宅支援事業所分も令和6年3月までに策定を完了しました。
2月に実施した第3回防災訓練では、地震発生を想定した訓練とグループホーム出火を想定した訓練に初めて取り組みました。
- ・ 特養ハイツでは、感染症BCPにおけるシミュレーション訓練を2回実施するとともに、毎月のグループ会議でガウンテクニックを学び有事に備えましたが、3月後半に新型コロナウイルス感染症が発生し、利用者17名と職員15名が感染してしまいました。
- ・ 令和5年度、介護保険事故報告事案は6件ありました。事故発生後には原因と対策のカンファレンスを行い、検討した対策の周知徹底を図り、同様事故の再発防止に努めました。
- ・ 高齢者虐待につながる不適切ケアが行われないよう、職員に「気づきシート」の毎月提出を求め、見習いたい行動は会議で発表することにより、職員同士がケアに対する意識を高め合いました。
- ・ キャリアパス要件である福祉職員生涯研修の受講や喀痰吸引等の専門研修の受講を支援し、職員の資質向上を図りました。また、ケアマネ資格取得をチャレンジ目標に設定して取り組む意欲ある職員を支援しました。

(2) 公益的取り組み、地域貢献活動等

- ・ 小学4年生を対象とした「認知症サポーター講座」の講師に職員を派遣するとともに、グループホーム利用者が小学校の音楽会を訪問して児童と交流する場を設け、認知症への理解促進を図りました。
- ・ 地元住民自治協議会主催のオレンジカフェ（おれん家カフェ）に4回、特養利用者8名、職員6名、実習生4名が参加し、地域住民の方々と交流を図りました。
- ・ 豊野町サマーフェスティバルの際、ゴミ拾い等の環境整備に職員6名を派遣したほか、煙火大会への協賛、職員有志による流し踊り連参加を通じて地域貢献を行いました。
- ・ 特養ハイツの敬老会に地元高齢者の参加を呼びかけ、4名の方に参加いただきました。また、泉平地区のどんど焼きやぐら作りには職員6名を派遣してお手伝いするなど、地元交流を深めました。

(3) 修繕、改修実績（100万円以上）

- ・ 特養ハイツの介護ベッド20台を更新し、令和2年度からの計画的な更新が完了しました。（R5-6,365千円、総事業費-90台更新、25,805千円）
- ・ 昨年度に続き、もう1棟のグループホームの入浴用リフト（浴槽、ボイラー含む）の整備を行い、利用者の介護環境の向上を図りました。（3,290千円）
- ・ 県の社会福祉施設等エネルギーコスト削減促進事業補助金を活用し、重油焚きボイラからLPガス焚きボイラへの更新を行いました。（17,600千円）

これにより、CO2排出量削減など環境負荷の低減や暖房効率向上による電気使用量の削減を図ることができました。